

fromメディア対抗
ユーノスロードスター
4時間耐久レースin筑波

サーキットマシン 実戦チューニング講座

速い、安い、おもしろい! サーキットで楽しい ロードスターは こう作れ!



テンハチバージョンの登場で、またまた人気に火のつきそうなユーノスロードスター。走行会を始め、各サンデーレースでも小さい体に大きな闘志をみなぎらせ大活躍、なのだ。そこで、「オレ達も1台、サーキット仕様を作ってみよう」というわけで、マツダスピード主催の4時間耐久レースにエントリー。“速い、安い、おもしろい”をコンセプトにサーキットチューニングにチャレンジだ。そりゃ、お金をかければいくらでも速くなる。でも、200万円のクルマには、それなりのチューニングがあるはず。キミもぜひ、参考に、成り金マシンに追い込みをかけるべし!

ショックはオーリンズのストリート用ガスショックを採用。減衰力は最大280kg(0.3m/s)までアップさせたが、サーキット走行ではもう少しふんばらせたいので、組み合わせるスプリングをフロント11kg、リア8kgと硬めにした。バルブ特性に優れたオーリンズの味を生かしつつ、路面からの大きな入力にもガッチリと応えられるセッティングだ。



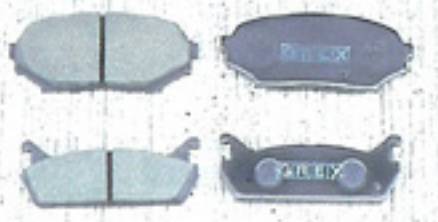
オイルはHKSのNAレーシング。100%化学合成オイルで、温度による劣化が少なく、エンジンをきっちりガードしてくれる。4時間もの耐久レースとなるとオイルで泣きを見ることも少なくない。レギュレーション上、オイルクーラーの増設が不可だったが、油温、油圧ともに安定していた。



パワー不足は足でカバー
踏んばりのきつトレッド&
アライメント設定がキモやア~



ブレーキパッドはトラストのGREX PRO。Oカバースト、パワーのないロードスターの組み合わせ、コーナリングの進入で速度を殺しすぎないようにするために、ここ1発の制動力より、コントロール性を重視する。4時間、サーキットを走りぬいても、ほとんどフェードを起こさず、ブレーキタッチも良かった。



ブレーキフルードはトラストのスーパーDOT4。ドライ沸点312°C、ウェット沸点200°Cという最上級のフルード。レースでもそのスーパーな実力をいかんなく発揮し、エアーレーションも起こさず、GREX PROのスポーツパッドとともに大活躍してくれた。左はブレーキのダストもキレイさっぱり落としてくれるトラストのスーパーブレーキクリーナー。メンテナンス時には欠かせない。



		左			右		
		基準値	調整前	調整後	基準値	調整前	調整後
F	トーイン	3	左右 \pm 1mm	トアウト1mm	左に同じ	—	—
	キャンバー	0°25'	0'	-1°30'	0'	-1°30'	-1°30'
	キャスター	4°30'	4'	5'	4'	6'	6'
	キングピン	11°20'	8'	12'	6'	12'	12'
R	トーイン	3	左右 \pm 1mm	トイン1mm	左に同じ	—	—
	キャンバー	-0°45'	-30'	-3'	-30'	-3'	-3'
	キャスター						
	キングピン						

タイヤ	サイズ	185/60-14	ノーマル仕様 トレッド (5.5J-14 +45)	レース(4h耐久)仕様 トレッド (F: 6J-14 +25) (R: 6J-14 +20)
メーカー		ヨコハマ ADVAN 021R		
ホイール	サイズ	6JJ		
メーカー		エンケイRC-S		